

専門の異なる他大学の学生との交流授業

金城大学短期大学部 幼児教育学科 教授 森田ゆかり



1. 幼児教育 × バイオ・化学 × 建築 × おもちゃ開発

異分野の学生が「アート」を通して交流を続けています。福井大学・西本研究室（建築）、金沢工業大学大学院・大澤・谷田研究室（バイオ・化学）、金沢工業大学・おもちゃ開発プロジェクト、本学幼児教育学科・K I N J O特化美術表現の4者です。西本研究室とは7年目、大澤・谷田研究室とは5年目、おもちゃ開発プロジェクトとは3年目になりました。



専門の異なる他大学の学生と「アート」を通して交流することにより、学生や教員の世界が広がること、何らかの化学反応が起こることを期待しています。今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため現時点では交流を行っていませんが、再開を願いながら、昨年度までの取り組みの一端を紹介します。

幼児教育学科の学生は、同じ志の学生たちと一日の大半を過ごし、実習も就職先も「幼児教育」。視野が狭くなりがちです。分野の異なる人と関わり、世界を広げ、別の世界にも面白いことがたくさんあることを感じ取ってほしいと思い、大学コンソーシアムの担当者を仲立ちに、石川高専（当時）の西本雅人先生とワークショップをやってみたことが「交流」の始まりでした。



2. 交流授業のプロセス 2014年度～2019年度

2014年度	10月	石川高専・西本研究室と商店街でのワークショップ	「親子でアート体験」
2015年度	4月	石川高専・西本研究室と交流授業	「対話による鑑賞」など
	10月	石川高専・西本研究室と「金城祭」でコラボ	「スライム&ホワイトハウス」
	2月	《金沢工大・大澤研究室が「成果発表会に参加」》	
2016年度	4月	石川高専・西本研究室と交流授業1	「対話による鑑賞」など
	7月	石川高専・西本研究室、金沢工大大学院・大澤研究室と交流授業2	「スライム」教材研究 「ホワイトハウス」教材研究
	10月	石川高専・西本研究室と「金城祭」でコラボ	「スライム&ホワイトハウス」
2017年度	4月	《石川高専の西本先生が福井大学に異動》	
	4月	福井大・西本研究室、金沢工大大学院・大澤研究室と交流授業	「対話による鑑賞」など
2018年度	4月	福井大・西本研究室、金沢工大大学院・大澤・谷田研究室、	「対話による鑑賞」など

		金沢工大おもちゃ開発プロジェクトと交流授業 1	
	7月	金沢工大大学院・大澤研究室と交流授業 2	「スライム」教材研究
	7月	福井大・西本研究室と交流授業 3	4つの「ハウス」教材研究
	10月	石川高専・西本研究室と「金城祭」でコラボ	「スライム&迷路ハウス」
2019年度	5月	福井大・西本研究室、金沢工大大学院・大澤・谷田研究室、 金沢工大おもちゃ開発プロジェクトと交流授業 1	「対話による鑑賞」など
	7月	福井大・西本研究室と交流授業 2	「ファサード」教材研究
	7月	金沢工大大学院・大澤・谷田研究室と交流授業 3	「スライム」教材研究
	7月	金沢工大おもちゃ開発プロジェクトと交流授業 4	ワークショップ
	10月	福井大・西本研究室と「金城祭」でコラボ	「スライム&ファサード」

3. 年度始めの交流授業は「対話による鑑賞」



それぞれの研究室について紹介、グループ分け、簡単な自己紹介、アイスブレイク、自分の「専門」に関することを専門外の人に分かりやすく語るワークを経て、アートカードを使った「対話による鑑賞」を行います。お互いを認め合い、共感できる環境で学び始める感覚は、学生にとって新鮮で心地よく、よいスタートを切ることができます。

4. 科学する心・探求する姿勢が育つ

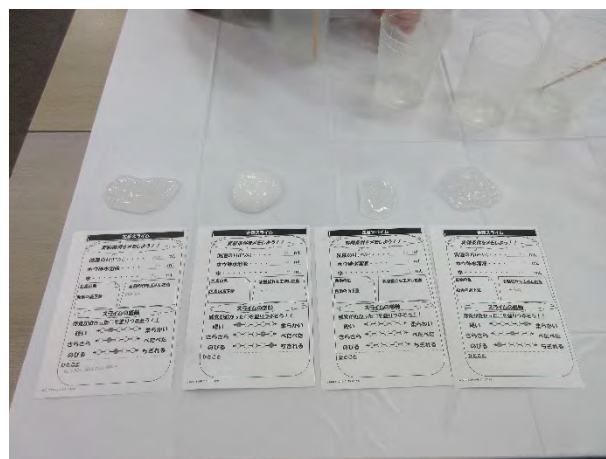
10月の「金城祭」に向けて、福井大・西本研究室、金沢工業大学大学院・大澤・谷田研究室とそれぞれ教材研究を行います。ここでは2018年度の「スライム」の教材研究を取り上げます。

Part 1



- ・ スライムができる原理・酢でとける原理を、中学生に分かるようにレクチャーしていただきました。
- ・ PVA（洗濯糊）：水：ホウ砂水溶液の比率を変えながら、触り心地がよく、こどもでも扱いやすい硬さを探りました。

「金城祭・K I N J O特化美術表現企画」の一つ「スライムコーナー」は12年間続いており、多い時には2日間で約600人がスライムをつくって遊ぶ、行列ができるコーナーです。「スライムコーナーは次年度も絶対にやった方がいい」と代々の先輩達から申し送りがあり、いまや伝統になりつつありますが、これまで改善を重ねながら引き継いで来た方法が本当にベターなのか？誰が作っても作り易く、触り心地がよく、扱いやすい硬さになる方法、比率は他にないだろうか？と思いながら、なかなか本格的に教材研究をできないままになっていました。



2018年度から「バイオ・化学」が専門の学生さんたちと教材研究をすることにより、計測が正確になり、データがきっちり残り、そもそも作り方がこれまで引き継がれて来た方法とは異なり、伝統に新たな水が注ぎこまれた感がありました。

Part 2

・発砲ビーズ入りの「つぶつぶスライム」、シェービングフォーム入りの「ふわふわスライム」を、データを取りながら、比率を変えて作ってみました。

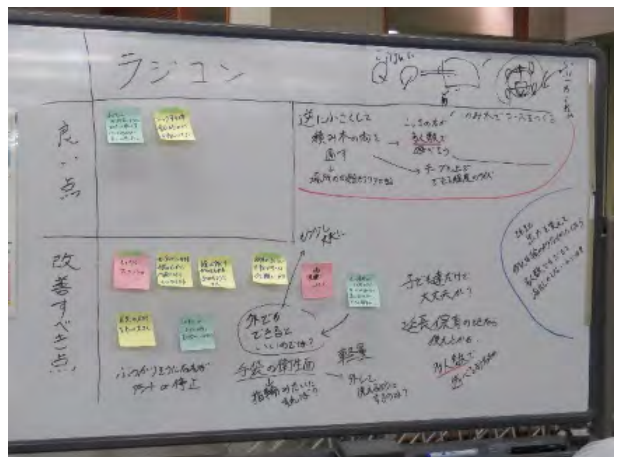


ここ数年の本学学生の様子を見ていると、「造形遊び」や「教材研究」で試行錯誤する楽しさ・面白さを知ると「造形活動」に対する見方・考え方が変わることを実感しています。知らないから、分からないから「知りたい」「試したい」「やってみたい」という思いは、乳幼児の「探索」「探求」に通じます。

4. 違和感や葛藤も体験する

昨年度から始まったプロジェクトについて触れておきます。7月に金沢工業大学・おもちゃ開発プロジェクトの学生さん達と交流授業を行った際、「絵本アプリ」というテーマもありました。幼児教育学科の学生は、子どもに声を出して絵本を読んであげることが「大切なコミュニケーション」と考えているので、機械の音を読むことに違和感を覚えました。なぜ絵本アプリを開発しているのか、なぜそのようなアイデアが出たのかとても気になりました。

《金沢工業大学・おもちゃ開発プロジェクトとの交流授業》



率直に意見交換することにより、金沢工大の学生さんからも以下のような感想が聞かれました。

- ・ 「安全面」「衛生面」や「人とのコミュニケーション」という観点が欠けていたので、ハッと気づかされた。技術者だけでは考えつかない意見をたくさん聞いて良かった。



- ・ 機械に任せると楽になるが、子どもの健康への問題や、親子間の関係にも関わってくるのが非常に勉強になった。「人」と「機械」が共存できるようなおもちゃが望まれると感じた。
- ・ 可視ではなく不可視（見えることだけではなく見えないこと）に目を向けることの大切さを学び、よい経験となった。

その後「絵本とアプリ」プロジェクトが立ち上がり、3回のミーティングを重ねました。



本学学生は「絵本アプリ」自体は「すごい！」と感じ、持ち歩く時にかさばらないなどのメリットも認めつつ、やはり「絵本アプリ」ではなく「紙の絵本」で、人の声で子どもに絵本を読んであげたいというこだわりを持ち続けていました。金沢工大の学生さんとの対話の中で折り合いがつけられず、葛藤しながら、幼児教育の視点から考えを深める機会を持つことができました。

5. 成果発表会（ポスターセッション）での交流

2月に行われる成果発表会には、授業で交流した他大学の学生さんや先生も毎年多数参加していただきます。



参加者からの鋭い質問に答えながら、ご意見に耳を傾けながら、4時間の「ポスターセッション」の間に2年生の顔つきが変わります。その姿から、次年度「K I N J O特化」を履修する1年生が、年間90コマの授業の本質を感じ取っていきます。学生の成長を確認するとともに、学外の本当に多くの皆さまに支えられていることを実感する感謝の一日です。

近年は人との関わりがやや苦手な学生も少なからずいますが、一年間の「K I N J O特化美術表現」の学びの中で「印象に残ったこと」として、「他大学の学生との交流授業」を挙げている学生が多数い

ます。意識的に外の世界と関わり、主体的にならざるを得ない授業を多く組み込んでいますが、福井大学、金沢工業大学の学生の皆さんや先生方と「アート」を通して関わったことが、小さな自信、成長につながっていることは確かです。多様な人、モノ、コトとの出会いは宝物です。

《福井大学・西本研究室との交流授業》

